

# 「しまなび」プログラムにおけるコーディネーター（地域住民）を活用した学びの仕組みの開発（その3）

研究年度 平成29年度

研究期間 平成29年度～平成29年度

研究者名 特任教授 中 島 洋

## I はじめに

長崎県立大学はグローバルな視点を持つとともに、地域課題に主体的に取り組むことができるグローバル人材の育成を図るため、学生の課題探求能力や問題解決力を涵養する教育プログラム（「しまなび」プログラム）を設け、地域を学ぶ実践的な体験学習等を実施している。

本プログラムは、PBL（project based learning 課題解決型学習法）学習法で展開され、主体的・実践的な学び（AL：アクティブラーニング）が基本であり、「しま」とのやりとりも学生自らが自主的・積極的に行うことになっている。

学生は、「しま」の実態に即した計画を作成し展開するため、「しま」からの多種多様な助言・支援が求められる。

このため、各「しま」にコーディネーターを置き、「しま」からの助言・支援を受けている。

## II 研究内容

「しま」のコーディネーターと学生の相互のやり取りのスムーズな展開を支援し計画等に反映させるため、学習支援システム（名称 manabie）を導入している。

学生は、学習支援システム（manabie）を通じて計画を作成していくが、相互にとってスムーズな展開を行うためには、学生とコーディネーターとのやりとりにおける種々の課題を把握、整理し、学習支援システム（manabie）上に反映し、学生及びコーディネーターが活用しやすいシステムの構築が求められる。

これらのことから、本研究の目的を次のこととした。

**「学生とコーディネーターとが相互に進捗状況に応じて情報が共有できる manabie の改善と構築」とした。**

特に、コーディネーターから見て学生の動きが把握できる manabie の構築に留意した。

### Ⅲ 平成30年度に向けての改善点

平成29年度の「しまなび」プログラム終了後に本プログラム全体に対して、改善を求める学生からの意見、コーディネーターからの指摘を聴取したが、次のようにまとめることが出来る。

- (1) 年度を越えたテーマの継続性  
(学生、コーディネーターからの意見)
- (2) 「しま」の意見(要望)をテーマに反映させる  
(コーディネーターからの意見)
- (3) フィールドワーク終了後も継続した活動  
(学生、コーディネーターからの意見)
- (4) 先輩の経験の活用  
(学生からの意見)
- (5) コーディネーターと学生とのスムーズな連携  
(学生、コーディネーターからの意見)
- (6) 客観的な根拠に基づくテーマの設定  
(コーディネーターからの意見)
- (7) コーディネーターと学生との連絡方法の改善  
(コーディネーター、学生からの意見)

このうちコーディネーターと学生とのスムーズな連携において manabie システムに改善が必要な(5)・(7)についてシステムの検証と改善を実施した。

### Ⅳ 平成30年度に向けて具体的改善が必要な事項

- (1) フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネ

- ーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握の徹底
- (2) 学生がコーディネーターに対応を依頼する内容の確認
  - (3) フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性についての相互の理解の徹底
  - (4) コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底
  - (5) フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネーターの取り組みの進捗状況の相互の把握の徹底
  - (6) コーディネーターと学生との連絡手段の改善
  - (7) 「具体策」に対する学生の取り組み（進捗）状況の相互の把握の徹底
  - (8) コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底

## V 具体的な改善策

- (1) フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握の徹底については、  
**具体策に関して、学生はその対応をコーディネーターに依頼するか、どうかを選択し、依頼する場合は「依頼」をチェックすることとし、依頼する場合のみコーディネーターは対応する。(6ページ、解説1参照)** とし、コーディネーターが判断できるようにした。また、このことを学生を指導する機会を設け、徹底することにした。
- (2) 学生がコーディネーターに対応を依頼する内容の確認については、  
**依頼に用いる画面の下に学生用の「コメント欄」を設け、コメント欄に依頼したい内容を入力し、それを通じてコーディネータは内容を確認する(6ページ、解説1・3参照)** こととした。

(3) フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性の相互の理解の徹底については、

コーディネーターが協力者・実施許可・料金について「要」・「不要」を指示し、「要」の場合は、実施月日、場所、内容などのアポを急いで確定させる。(6ページ、解説2参照) とし、必要性を相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすくするとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

(4) コーディネーターからのコメント(アドバイス)に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底については、

グループのリーダー・副リーダー、この具体策の主担当・副担当の名前が、コメントの下に表示され、リーダー・副リーダー・主担当・副担当コメントを読んだことを「既読」の表示によりコーディネーターが理解できるようにした。(6ページ、解説4 参照)さらに、相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすくするとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

(5) フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネーターの取り組みの進捗状況の相互の把握の徹底については、

まだ対応していない場合、対応している最中は「C 未対応」と表示し、対応が完了した場合は、「C 対応完」と表示。コーディネーターとしての対応が必要ない場合、できない場合は「C 対応不要」と表示される。(7ページ、解説5及び7ページ、解説7参照)とし、進捗状況を相互が把握できるようにした。

さらに相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすくするとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

(6) コーディネーターと学生との連絡手段の改善については、これまでコーディネーターが学生に指示をコメントにて発信した場合、学生の学内メールにて発信をした旨を連絡していたが、学生が学内メールを確認しないケースが多く見られたことから、相互の理解と連携がうまくいかない状況があった。

**このため、学生が学内メールを確認しない場合は、学生の携帯調電話にショートメールを発信し、コーディネーターから連絡があることを確認させることにした。**

(7) フィールドワークの計画時における「具体策」に対する学生の取り組みの進捗状況の相互の把握については、

**まだ取り組んでいない場合、取り組みの途中は、「S 未取組」と表示され、取り組みが完了した場合は、「S 取組完」と表示される。(7ページ、解説6参照) とし、捗状況を相互が把握できるようにした。**

(8) コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握については、

**具体策画面のコメント欄（下部欄）に表示されるコーディネーターから発信されたコメントのうち、学生が確認して（読んで）いない**数**が表示される。(7ページ、解説8参照) とし進捗状況を相互が把握できるようにした。また、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。**

## コメント欄を活用することでの、学生・コーディネーターとの相互の連絡方法

**コーディネーター手配**  依頼 解説 1 参照 解説 5 参照 未対応

協力者 ⇒ (要) 【氏名：役場総務課神崎氏、連絡先：0959-56-3111】

実施許可 ⇒ (要) 解説 2 参照

料 金 ⇒ (無) 解説 3 参照

---

**コメント**

コーディネーターに依頼する場合は、依頼したい内容をコメント欄に入力し必ず送信すること

2018年01月22日 2時33分【小値賀Cコーディネーター】 要返信

空き家調査においては、役場総務課の神崎様に連絡してください。連絡が終わったら、その旨こちらのコメントで連絡ください。

解説 4 参照
磯村(既) 小島(未)

解説 1  (重要)	<p>具体策に関して、その対応をコーディネーターに依頼するか、どうかを選択し、依頼する場合は「依頼」をチェックします。</p> <p>依頼する場合のみコーディネーターは対応します。</p> <p>コーディネーターに依頼したい内容を学生のコメント欄に入力し、必ず送信すること。</p>
解説 2  (重要)	<p>コーディネーターが協力者・実施許可・料金について「要」・「不要」を指示します。「要」の場合は、実施月日、場所、内容などのアポを急いで確定させます。</p> <p>(アポの確定には、直ちに取り組みことが重要です。)</p>
解説 3  (重要)	<p>コーディネーター・「しま」市町職員・先生から、この具体策についてのコメントが表示されます。学生は返信できます。</p> <p>コーディネーター・「しま」の市町職員・先生との相互の連絡にはコメント欄を活用します。</p> <p>コーディネーターに依頼したい内容を学生のコメント欄に入力し、必ず送信すること。</p>
解説 4	<p>グループのリーダー・副リーダー、この具体策の主担当・副担当の名前が、コメントの下に表示されていますので、リーダー・副リーダー・主担当・副担当コメントを必ず読み、「既読」の表示にします。</p> <p>状況に応じて、学生は返信でき、コーディネーター・「しま」の市町職員・先生との相互の連絡に活用します。</p>

解説5	<p>依頼に対してコーディネーターが未対応または対応中の場合、「未対応」</p> <p>対応完了した場合、「対応完」と表示されます。</p>
-----	--

## 学生、コーディネーターの対応状況の確認について

実施計画書

タイトル(題目)	ちょっと寄ってみね！「美しい自然と人の温かさに触れられる島。おぢか」																			
テーマ選定の理由(根拠)	「世界美しい村同盟」に加入している程の美しい村の、景観の保持を島外から新たになにか提案できないかと考えたから。小値賀が、人口減少に逆行した生活ごみの増加や、漂着ごみによる海や海岸の環境・景観の破壊という二つの問題を抱えているから。																			
テーマ	景観の保持、ごみ問題の解消、対策の提案(日常のごみ問題・漂着ごみ問題)																			
しまにとっての意味	景観の保持に対して、島外から見た観光客目線の保つべき景観がどのようなものかを知ることができ、島民の声にも触れつつ、景観の保持についての新たな提案を受けることができる。ごみ問題の解消、対策の提案に対して、日常のごみ問題、漂着ごみ問題を別として、島外の意見を取り入れることができる。ボランティアの募集に関しても、参加する側の意見を行くことができ、既存のボランティア活動の強化や、新たな活動の提案にも繋がる。																			
これまでとの相違点・新規性	景観の保持に関して、景観の情報発信についての提案は見られるが、保持そのものに対する提案はあまり見ない、新規性があると感じる。ごみ問題に関して、まずごみに触れる発表を見受けない。ごみの対策に関する新たな提案を行いたい。																			
到達目標	1 空き家をワークショップ、勉強の場、カフェとしての転用、公共の場など、人が集まる場所へ活用する。 すなわち、島民の方同士や島外からの観光客、移住者の方たちとのコミュニケーションのための場所の提供をして、人の温かさに触れられる地域コミュニティのサポートをする事。	1.1 空き家の現状のデータを調べる。																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体策</th> </tr> <tr> <th colspan="2">どのようなことを(内容)、どんな手段、だれに(対象)、どこで(場所)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.1.1.1</td> <td>内容 情報収集</td> </tr> <tr> <td></td> <td>手段 FW(実施)前 聞き取り</td> </tr> <tr> <td></td> <td>対象 行政の方</td> </tr> <tr> <td></td> <td>場所 小値賀町役場</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主担当 磯村 芽衣</td> </tr> <tr> <td></td> <td>編集 小島 幸菜</td> </tr> <tr> <td colspan="2">+ 具体策の追加</td> </tr> </tbody> </table>	具体策		どのようなことを(内容)、どんな手段、だれに(対象)、どこで(場所)		1.1.1.1	内容 情報収集		手段 FW(実施)前 聞き取り		対象 行政の方		場所 小値賀町役場		主担当 磯村 芽衣		編集 小島 幸菜	+ 具体策の追加	
具体策																				
どのようなことを(内容)、どんな手段、だれに(対象)、どこで(場所)																				
1.1.1.1	内容 情報収集																			
	手段 FW(実施)前 聞き取り																			
	対象 行政の方																			
	場所 小値賀町役場																			
	主担当 磯村 芽衣																			
	編集 小島 幸菜																			
+ 具体策の追加																				

解説6参照  
解説7参照  
解説8参照

解説6	<p>学生側の取り組み状況が表示されます。</p> <p>それぞれの具体策への取り組みが完了するまで行ないます。</p> <p>まだ取り組んでいない場合、取り組みの途中は、「S 未取組」と表示されます。</p> <p>取り組みが完了した場合は、「S 取組完」と表示されます。</p>
解説7	<p>(具体策に関する)学生からの依頼に対するコーディネーター側の対応状況が表示されます。</p> <p>まだ対応していない場合、対応している最中は「C 未対応」と表示します。</p> <p>対応が完了した場合は、「C 対応完」と表示します。</p> <p>コーディネーターとしての対応が必要ない場合、できない場合は「C 対応不要」と表示します。</p>
解説8	<p>学生にコーディネーター・市町職員から発信されたコメントのうち、学生が確認して(読んで)いない数が表示されます。</p> <p>コメントは具体策画面のコメント欄(下部欄)に表示されています。</p>

## VI 改善された学習支援システムのコーディネーターへの周知・習熟

改善した学習支援システム（manabie）をコーディネーターが十分に習熟し、活用できるように、平成30年1月下旬～2月上旬に各しまを訪問し、コーディネーターへの周知、質疑応答、意見交換を行った。

また、改善した学習支援システム（manabie）に習熟するため、実際にシステムを運用する研修会を平成30年2月22日に開催した。

## VII おわりに

「しまなび」プログラムの manabie システムは、平成27年度の使用開始年度は学生の運用に主眼をおいたものであった。

しかしながら、システム構築・開発上に時間の制限もあり、コーディネーターと学生との連携に立った視点が不足し、連携上に多くの問題点が露見した。

このため、平成27年度のフィールドワーク終了後に、コーディネーターと学生との連携運用がより可能となるために検証・検討を行い、改善の後、平成28年度の「しまなび」プログラムに活用した。

しかし、学生、コーディネーターの両者の情報の共有に基づく連携に改善すべき点がさらに露見されたことから今回の研究を行い、さらなる改善を行なった。

今年度の研究により、学生、コーディネーターの両者にとって連携上に運用しやすい「学びの仕組み」が出来たと考える。

今後は、再々構築したシステムでの連携運用の検証を行い、さらにレベルアップした「学びの仕組み」を目指していきたい。